

わが街・わが地域の史跡・遺跡を訪ねる（8）

—新四国相馬霊場と新木の第25番・第77番・第81番札所—

我孫子市史研究センター いいじろ 飯白 和子

江戸時代も中頃になると、庶民の社寺参詣が盛んになります。各地に霊場移しがつくられました。

「新四国相馬霊場」も、利根川を挟んだ旧相馬郡内の村々の寺社を四国八十八ヶ所の寺院の移し（写し）と称し霊場にしたものです。札所ともいいます。安永4～9年（1775～1780）ごろには、ほぼ完成したと考えられています。

移しとされた寺社は、柏市に4カ所、我孫子市に17カ所、取手市に58カ所あります。第1番と第88番が取手の長禅寺で、長禅寺から始まり長禅寺で終わるようになっていますが、番外として89番（我孫子市布佐・浅間宮）があるのが特徴です。

また、番号順に順序良く配置されているわけではなく、番号中に巡拝すると同じ道を行ったり来たりすることになります。「相馬霊場案内略図」（大正4年発行）には、この地図の順路にして17里余（約68km）、何処の地より始めても3日間はかかり、番号順に巡拝すると総里数142里余（約568km）になると書かれています。



第25番大師堂（旧地蔵院）



第77番大師堂（旧弁天堂）

新木地区には3カ所の移し（札所）があり、上新木の地蔵院は高知県室戸市室津にある第25番津照寺（本尊延命地藏）、沖田の弁天堂（現葺不合神社）は香川県多度津郡多度津町の第77番道隆寺（本尊薬師如来）、下新木の長福寺は香川県坂出市青梅町の第81番白峰寺（本尊千手観音）を移したものです。

●観覚光音禅師 霊場の開設者は、取手宿で穀物商を営んでいた伊勢屋源六。宝暦10年（1760）50歳で出家し観覚光音と号し、四国八十八ヶ所の寺院の土砂を持ち帰り、相馬郡内、利根川を挟んだ2里四方の寺院にこの土砂を埋め霊場にしたといわれます。

源六は、現在の長野県南佐久郡南牧村海尻の井出三左衛門の3男として宝永8年（1711）に生まれ、13歳で江戸浅草の呉服商伊勢屋庄左衛門に奉公。30歳のとき、常陸国筑波郡豊体村（つくばみらい市豊体）の渡邊家の経営再建を手がけ果たすと、50両と貰い受けた木綿を元手に取手宿で呉服商を営むが、後に乾物雑貨商に転じたという。神仏への信仰帰依が高まり、店を番頭に譲り長禅寺で剃髪。長禅寺には、光音を祀った光音堂があります。

●「逆参り」 逆参りというのは、89番から1番までの札所を番号順にお参りする巡拝の仕方です。旧柴崎村（現我孫子市柴崎）の川村源兵衛が逆巡拝した時の記録が残されています。源兵衛49歳。嘉永7年（1854）6月10日より閏7月18日まで、14日間かけて行っています。参詣中は「魚物酒女共堅ク相慎ミ」、利根川を渡し舟で30回渡り、「家内安全、子孫長久、息災延命」を祈願したとあります。すでに、新四国八十八ヶ所巡拝に、母1度、私2度、×3度行ったともあります。

新木の81番と77番へは2日目に参拝しています。6月11日の早朝、柴崎村を出立、対岸の稲村にある83番諏訪宮から始め、82番大鹿村の弘経寺を参拝、渡船で我孫子に戻り新木村の81番・長福寺を参拝し、また稲村に戻り80番毘沙門天を参拝、米野井村79番龍禅寺、山の坊の78番弥陀堂を拝し、渡船で我孫子に戻り、新木村の77番弁天堂、中峠村の76番龍泉寺、柴崎村の75番東源寺を参拝し帰宅。利根川を2回往復しています。



第81番大師堂（旧長福寺）

〔引用文献：『お大師道』、『新四国相馬霊場八十八ヶ所を訪ねる』〕